目次

第一章　メンデレエフを非活動的な人物であると結論付けてしまうべきではない……一
第二章　程遠き仕事の完成および忘れられた誤謬について……一二
第三章　メンデレエフが異質同晶の研究に従事する……三一
第四章　メンデレエフが健康を恢復し、二つの論文を発表する……三九
第五章　メンデレエフが科学評論家として意見を述べる……五三
第六章　歓待と呼ばれることの浅はかさ……六二
第七章　研究家の成功は自我を現わす……七二
第八章　化学において分子の概念が確認される……八八
第九章　有機化学とその非難され得る個所……九八
第十章　農業の実験……一一四
第十一章　メンデレエフが自分の社会的使命を決定する……一二九
第十二章　メンデレエフ的「有機化学」が語り尽される……一四〇
第十三章　化学元素の周期体系はいかにして作られたか……一五八
第十四章　周期体系は原子構造に対する鍵である……一七五
第十五章　メンデレエフが高層気球の構造について夢を描く……一九六
第十六章　メンデレエフが多くの心霊論者と激しく斗う……二〇四

第十七章　メンデレエフは「新しい天映は海の彼方には見られない」との結論に達する……二二一
第十八章　メンデレエフが芸術に傾倒する……二三四
第十九章　ノーベルとの論争……二五一
第二十章　全ロシヤがメンデレエフを科学学士院会員に選出する……二七一
第二十一章　メンデレエフの心に誓った命がけの志が実現される……二八四
第二十二章　メンデレエフが大学を去る……三〇四
第二十三章　メンデレエフが火薬を考案する……三二五
第二十四章　度量衡学におけるメンデレエフ時代……三三六
第二十五章　実現された夢……三六三
デ・イ・メンデレエフの生涯および活動の基本的資料……三六九
参考書目……三七二
訳者補注……三七五
あとがき……三八〇
現代の資料によるデ・イ・メンデレエフの周期体系……表紙裏